



【 学校教育目標 】 確かな学力と豊かな心を持ち、たくましく生き抜く小鯖っ子の育成

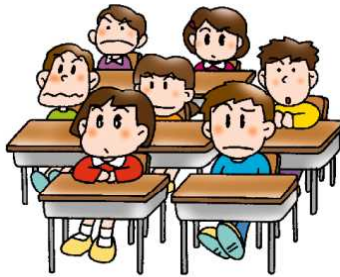
【めざす子ども像】 ㊦: 思いやりのある子 ㊧: さわやか元気な子 ㊨: ばっちり学ぶ子

## 人の話を「聴く」ことができますか？

校長 高田 修司

企業の人事担当者に、採用時に重視する資質は何ですか？と尋ねると、多くの業種で常に上位にあがるのが「コミュニケーション能力の高さ」です。

ただ、「コミュニケーション能力が高い」とは具体的にどういうこと？と尋ねてみると、多くの人が「誰とでも話ができる」とか「話題が豊富でしゃべりがうまい」など、「コミュニケーション能力が高い＝話し上手」という解釈になっているようです。



一理あるのですが、コミュニケーションとはアウトプットとインプットがセットなので、上手に聞いて（聴いて？）くれる相手がいないとそもそも成立しません。

そして、話し手は聞き手の思いや考えも把握しながら（あらかじめ、とか、途中で…）話すことが必須です。

もうお気づきですか？

高いコミュニケーション能力を支えているのは「聴く力」なのです。

昔から「話し上手は聴き上手」とも言いますよね。

さて、わが子の、小鯖の子どもたちの「聴く力」はどうでしょう。

人の話をきちんと「聴けて」いるのでしょうか？

何かと慌ただしく忙しい毎日ですが、手本となる私たち大人が、まずは子どもの話を「しっかりと聴く」姿勢を大切にしていきたいものですね。



## 学校あるある？！ ～先生が注意する時の言葉かけ～



「〇〇さん！廊下は歩きます！」

これは、最近の学校でよく使われるようになった典型的な「先生言葉」で、「注意する時の言葉遣い」です。

「歩きますよ！」と、「よ」をつけたほうが、一般的にはわかりやすい注意言葉になると思いますが、なぜか「歩きます！」という言い切り型が多いのが先生の特徴です。（一昔前なら「〇〇～！廊下を走るなあ～！」が一般的？でしたかね。）

理由は、「くん、さんを付けて呼ぶことで子どもの人格を尊重」し、「してはいけないことより、すべき行動を示すことで子どもの思考力・判断力を刺激」したいからです。

近年の「丁寧な理由説明と自ら考え行動させる指導」の一環ですね！

以上、「学校あるある」でした？！